

完全予約制『もの忘れ』外来のご案内

大切なのは、できるだけ早く変化に気づくことです。
ご本人やご家族のお気持ちに配慮した対応に努めています。

ご自身やご家族が「どうも最近“もの忘れ”が多くなってきた」と感じられたら、
受診をご検討ください。

的確な検査と迅速な対処により機能低下や進行を防ぐことができ、また隠れていた
病気を発見することもあります。

◆こんな様子が増えてきたらご注意を！◆

- ・ 同じことを言ったり聞いたりする
- ・ 大切なものを失くしたり、置き忘れてきたりする
- ・ 今までできていた仕事や家事ができなくなった
- ・ 今まで好きだったものに、興味や関心がなくなった
- ・ ささいなことで怒りっぽくなった



人は誰でも年をとるにつれ忘れっぽくなります。それが年相応なのか、それとも認知症に
つながる「心配なもの忘れ」なのか、それがご家族にとっての心配事ごとです。

大切なのは、でききるだけ早く「心配なもの忘れ」に気づき、適切な治療を行うことです。
また、様々な病気が原因で「もの忘れ」の症状が起こることもあります。
専門医の診断を受け、原因や症状を知り、治療を行うことで状態の改善がみられたり、生活
の中で気をつけることや、より良い生活を送るヒントが得られます。

ご本人やご家族にも気持ちに余裕が生まれ、いつまでも元気に暮らしていけるように
早めの受診をおすすめします。

まずは、お電話にて「もの忘れ外来の担当まで」ご連絡ください。

総泉病院 外来 043-237-5001(代)

電話受付 月曜日～金曜日 13:00～15:00

※業務の都合にて、折り返しのお電話となる場合がございます。

受診の流れ

1. まずはお電話にて、看護師が以下の内容の問診を行います。

- ・いつごろから、どんな症状がみられましたか？
- ・今、治療を受けている病気はありますか？
- ・飲んでいるお薬はありますか？
- ・今、いちばん困っていること、大変なことは何ですか？
- ・お食事はとれていますか？
- ・火の始末は大丈夫ですか？
- ・車の運転をしていますか？
- ・ご本人は受診することをどう考えていますか？



2. 受診可能な日時を伺い、調整して受診日時をご連絡いたします。

3. 受診当日にご本人とご家族※にてご来院ください。

※同行するご家族は同居している方もしくはご本人の日常の様子ができる方

<受診時の持ち物>

- ・ 保険証 ※必須
- ・ かかりつけ医の紹介状 (必須ではありません)
- ・ お薬手帳など服用中のお薬の内容がわかるもの (お薬の持参でも可) ※必須
- ・ 初回受診時の問診票 ※必須 当院ホームページよりダウンロード可能です。
(受診当日に記入することもできます。外来にてお申し出ください)
- ・ その他、ご本人の変化の様子の記録

ご本人が受診時に「よそ行きの顔」をみせることがあります。ご家族にしかわからない症状も多いと思いますので、普段の様子を記録しておいてください。

4. 診断・治療

ご本人やご家族からのお話や検査などを総合して診断をします。

原則 2~3 回の受診で、今後の方向付けをしていきます。

治療や日々の生活についての相談をし、必要な方には症状に応じたお薬を処方します。

ご家族の方へ：ご本人が受診時に「よそ行きの顔」をみせることがあります。ご家族にしかわからない症状も多いと思いますので、普段の様子をしっかりとお伝えください。ご本人の前で話づらいことは、メモなどに書いてお渡しください。

よくある質問

Q. 紹介状やお薬手帳は必要ですか？

かかりつけ医がいる場合はご相談の上、できれば紹介状をご持参ください。
紹介状がない場合でも、ご相談・受診は可能ですので、その旨お知らせください。
また、お薬には飲み合わせに注意が必要なものもありますので、現在服用しているお薬情報はとても重要です。お薬手帳など情報がわかるものをご持参ください。

Q. 本人が「病院へ行きたくない」「自分はどこも悪くない」と言います。

そのような方は多く存在します。診断されることが怖い反面、物忘れが増えたご自身を「何が起こっているのだろう」と大きな不安を抱えていることも原因の一つです。
一人ひとりで対応の方法が異なる場合もありますので、お電話にてご相談ください。

Q. 本人の前だと先生に話がしづらいのですが…

ご本人の前で話しづらいことや、日常のご様子の変化などメモに記入したものを、受付の際に事務へお渡しください。診察前に確認させていただきます。
また、ご本人が検査などを行っている間に、ご家族からお話を伺う場合もあります。

Q. 「もの忘れ」「認知症」と言われたら、本人は傷ついてしまうのではないかと不安です。

ご本人に病名を告知するか、どのようにお話しするかについては、事前にご家族と相談させていただきます。ご本人が『わからない不安』を抱えたまま、診察を受けたり、薬を服用するのではなく、現在の病気の状況をお話することで、ご家族とともに私たちが一緒に支えている『安心感』を持っていただけたら、より良い治療になっていくと思います。

少しでも気になること、お悩みごとがあれば、お気軽にお電話でご相談ください